

発刊のことば

CAUA 会長（麗澤大学情報システムセンター長）

林 英輔

CAUA の機関誌が発刊されることになりました。CAUA の発足以来、総会、分科会の活動を見ていると、着実にアカデミックユーザ会らしい活動が進んできているように思われます。過日の分科会での発表を聞いていますと、そこでの興味深い色々なお話を一過性の講演発表で終わらせるのは残念であり、印刷物にして後で参照できるようにし、より深く読むことができるようにするための機関誌の必要を強く感じられましたので、この発刊で、ユーザ会の活動がまた一步前へ進むことになると思います。

各大学において情報システムの運営管理に係っている人々、情報システムを利用して教育研究や図書館・事務等の大学運営のお仕事をされていらっしゃる方々は、情報システムの技術や利用法、情報ネットワークをめぐる状況等の変化が非常に急速に変化していることを感じていらっしゃると思います。そのため、それぞれの情報システムのレベルアップや更新は日常的な課題になっています。私の経験では、システム運用を管理する側から見ると、本来、人は誤りをおかすものですし、システムも障害を起こすものであると認識した方が、システムの運用管理の仕事はよりうまくゆくと考えています。大学における多くのエンドユーザの円滑な情報システム利用を保障するためには、比較的頻繁に発生するシステム障害を克服し、外部からのシステム攻撃を防御する、いわば危機管理的な活動は、実は定常的なシステム運営の仕事であると考えた方がよいと思われます。一方、多くの大学等の組織では、バックボーンネットワークにおける光通信技術（フォトリック・テクノロジー）の大きな発展とその利用への大きな期待の背景のもとで、LAN とアクセス系ネットワークの大幅なブロードバンド化を実現し、有効な情報コンテンツを増やし、教育研究の一層の発展を策しておられると思います。しかし、多くの組織では、このような重要な仕事を担っている割には、その部門は小規模で、スタッフの数が少ないのが普通ですから、多くの方々は、常に強い緊張感のもとで多忙は日々を送っていらっしゃいます。同一ベンダーのユーザとして似通ったシステムを運用している人々の集まりである本 CAUA の機能として、このような人々の間で、情報システムの運用改善の知識や技術の情報を交流して相互の助けになることが大いに期待されています。本誌の役割もそこにあります。みなさま方のお力添えで、その役割を大いに果たせますよう、積極的なご投稿をお願いします。また、編集にたずさわれます方々には、内容が分かり易く、読み易くなるよう、また、投稿されたレポートができるだけ速やかに出版されますよう、ご尽力くださいますようお願いいたします。

平成 13 年如月